

短期集中日本語教育におけるJCSを 使用したコースデザイン

村野 良子

1. はじめに

国際基督教大学夏期日本語教育は6週間にわたって行われる日本語の学習と文化的な学習を一体化したプログラムである。プログラムの全体像と、日本語教育の各レベルの説明については、毎年刊行される『ICU夏期日本語教育論集』に詳しい報告がある。ここではこのプログラムのC1コース（日本語学習の経験がない受講生を対象とするコース）においてICUの日本語初級教科書vol.1（以下JCSとする）を6週間使用した2年間の経験⁶⁾に基づいて、コースデザインの可能性と教材の生かし方について論ずる。

2. コースデザイン

2-1 短期集中日本語教育における入門コースの目標

夏期6週間の集中日本語教育において入門コースに期待されるものはどのようなことだろうか。筆者が担当した2年間のC1コースの受講生の受講目的から整理すると²⁾、さまざまな理由から、短期間に日本語をある程度まで学習しておきたいという希望があることがわかる。学習者によっては、夏の日本語学習は大学で日本語を履修するための準備であることもあるが、祖先の言葉に対する関心、日本での生活のため、将来の日本関連の就職の可能性を考えて、あるいはまた母国で独習していた日本語を一気に進めたいなど受講動機は様々である。しかし動機は異なっても、2週間にかける受講生の期待の大きいことが、通常の学期とは異なる夏の短期集中日本語教育の特徴である。さらに受講生のほとんどが講座終了後、それぞれの国に帰国することから、日本における日本語学習の利点、つまり文化と社会を体験しながら言語を学ぶという側面を重視していることも特徴である。

このような受講生のニーズを踏まえて、過去2年間のC1では、(1)話し言葉の習得を中心に、日本における日常生活の基本的なコミュニケーション能力の養成と、(2)今後の日本語学習にそなえて、正確さを重視し、学習の方法をも学べるようにすることを目標とした。

2-2 短期集中日本語教育における入門コースの教育の方針

コースの目標の実現のために、教室活動では話言葉の学習を重視し、日本語によるコミュニケーションを習慣づけるために、視覚的な助けや学習者の経験や知識を活用して、最初の授業時間から教師ができる限り日本語を使用し、英語などの媒介語による口頭での説明は最小限にとどめるようにした。同時に学習者の日本語による発話を促すことも心掛けた。

簡単なことではあるが、6週間という限られた期間の場合、特に最初の接し方が大切であると思われる。

もう一つは学習の場が日本であることをできる限り活用し、知識にとどまらず、体験から学ぶ学習活動をできるだけコースデザインに組み込むことを心掛けたことである。ごく簡単な日本語によるやり取りでも十分に日本人とコミュニケーションが成立したという成功経験は最も有効な動機づけ要因であろう。このためタスクを中心とした課題学習をシラバスに組み込んだ。

2-3 1997年のC1のコースデザイン

次に1997年度のC1のコースデザインと6週間のコースの特徴についてまとめる。資料1-1、1-2、1-3は受講生に配付したコース概要とシラバスである。

資料1-1

ICU Summer Courses in Japanese,1997

Course description and Syllabus C1

Japanese Course 1 is for students with no previous formal study of Japanese.

GOAL:

The goal of this course is to build a sound base for the further study of Japanese. By the end of the course, the students will be able of communicate in every day simple and practical situations. You will be able to recognize many signs in daily life and can read and write simple notes. The course intends to cover first 10 lessons of the following textbook.

TEXTBOOKS:

Japanese for University Students Today. ICU, 1996

Other materials :

Handouts from other textbooks

Video and Audiotape materials

INSTRUCTORS:

Makino Reiko & Murano Ryoko(Course head teacher)

EVALUATION CRITERIA:

The students will be evaluated based on the following criteria:

Oral Test	5times	20 %
Aural Test	5times	10 %
Grammar & Reading Test	5times	20 %
Hiragana, Katakana, & Kanji Quiz		20 %
Writing assignment	5times	20 %
Project		5 %
Class work (Video etc.)		5 %

資料1-1ではC1コースの目標が日本語学習の基礎を作ることであることを確認し、6週間の学習終了時には、簡単な日常生活の場面で、最も基本的なタスクがこなせるようになるはずであるとしている。そのために使用する材料はICUの初級日本語教材JCSであるが、C1ではそのvol.1を学習することが目標である。クラスは月曜日から金曜日までの午前中の時間帯（8時半から12時半まで）の週20コマ（1コマは50分）であり、2人の教員が交代で教える。学習の成果の評価基準には教科書（JCS）2課毎に行うテストとひらがな、かたかな、および漢字の小テスト、宿題となる作文、総合的な課題であるプロジェクト、および教室活動に対する参加の程度が含まれる。評価基準はC1というコースが重視している学習活動と学習者の時間的な負担の割合を考慮して決定した。

JCSの学習のペースは1週間に2課を基本とし、フォーメーション、ドリルをそれぞれ2コマずつ、ロールプレイを1コマ、読み方書き方を2コマ、聞き方／ビデオ1コマがひとつの流れである。金曜日は2課分のテストに当て、会話テストと聞き方テスト、および文法テストを行う。このほかにビデオの時間を1コマ、予備の時間として1コマとってある。資料1-2は一週間の学習の流れである。

資料1-2 一週間の基本的な流れ

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	フォーメーション	ドリル	フォーメーション	ビデオ	テスト
2	フォーメーション	ロールプレイ	フォーメーション	ドリル	
3	ドリル	読み方・書き方	ドリル	ロールプレイ	ビデオ
4	読み方・書き方	聞き方（その他）	読み方・書き方	読み方・書き方	予備

夏期日本語教育では、以上20コマの午前中の授業に加えて、水曜日を除く週4日の午後1時半から2時半まで、オフィスアワーが組まれる。これは教師による学生の相談や個別指導の時間である。1996年の夏期日本語教育C1では、この時間帯に個別指導を行った。しかし1997年度は、オフィスアワーを半ば必修のクラス時間として扱い、1、2週目は主に平仮名と片仮名の学習指導を行い、それ以降の3、4、5週目は会話のクラスとし、教科書を離れて、日常的に使用する会話の導入や練習を行った。

C1のスケジュールの中で、夏期日本語教育の他のコースと異なるのは、C1が登録日の翌日から始まるということである。それはC1が日本語を正式に学習した経験のない学習者を対象とするため、クラス分けテストを行う必要がなく、そのためクラス分けテストに当てられた4コマを最初の授業に使うことができるからである。過去二年間はクラス分けテストが金曜日に行われたため、C1のみ、0週目の金曜日から授業を始めた。これはC1にとっては、(1)平仮名と日本語の音声の基礎を導入することができ、受講生が土曜日と日曜日を平仮名の学習にあてることができるという利点がある。6週間という限られた期間の入門コースの場合、この1日の意味は計り知れない。

正式に授業が始まるのは週開けの月曜日である。資料1-3 (A) は第1週と2週の予定である。事実上前の週の金曜日から始まっているので、1週目は時間を十分に使うことができる。第1週のテストはオーラルのみである。資料1-3 (B)、(C) はそれぞれ3、4週と5、6週の予定である。

資料1-3 (A) 第1週と2週の予定

	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日
1	Lab. Orientation	L 1 D	L 2 F	ビデオ	テスト
2	L 1 D	L 1 D	L 2 D	L 2	Oral Aural
3	L 1 D	L 1 Role Play	ひらがなルール	L 2 Role Play	ビデオヤンさん
4	ひらがな (た～ん)	ひらがな Q VOC. Q	ひらがな Q	ひらがな R ひらがな Q	R & W
Office hour	ひらがな	ひらがな		ひらがな	ひらがな
	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日
1	ひらがなテスト	L 3 D	L 4 F	ビデオ	テスト
2	L 3 F	L 3 Role Play	L 4 D	会話	L 3/4
3	カタカナ	カタカナ復習	L 4 D	Aural	ビデオヤンさん
4	L 1 KQ L 2 K	L 2 KQ	カタカナ Q カタカナ	L 4 Role Play L 2 R	L 3 K L 3 R
Office hour	カタカナ	カタカナ		カタカナ	カタカナ

資料1-3 (B) 第3週4週の予定

	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日
1	L 5 F	L 5 D	L 6 F	ビデオ	テスト
2	L 5 F	L 5 D	L 6 F	L 6 D	L 5 & 6
3	カタカナ Q	L 5 Role Play	L 6 D	L 6 Role Play	ビデオヤンさん
4	L 4 K K 3 KQ	L 4 KQ	L 5 K	L 5 KQ	R & W
Office hour	会話	会話		会話	会話
	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日	8月1日
1	L 7 F	L 7 D	L 8 F	ビデオ	プロジェクト
2	L 7 F	L 7 復習	L 8 D	会話	
3	L 7 D	L 7 Role Play	L 8 D	L 8 D	
4	L 6 K	L 6 KQ	L 8 D	L 8 Role Play	
Office hour	会話	会話		会話	

資料1-3 (c) 第5週6週の予定

	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日
1	テスト	L 9 F	L 9 D	ビデオ	L 10 D
2	L 7 & 8	L 9 F		復習	復習
3	Grammar Test	LL 9 D	L 9 Role Play	1 1 0 F	L 10 Role Play
4	Aural & Oral test L 7 K	L 7 K Q L 8 K	L 8 K Q Reading Practice	L 9 K	L 9 K Q
Office hour	会話	会話		会話	会話
1	11 テスト L9-10	12 Aural Practice	13 Extra Grammar	14 ビデオ Review	15
2	Grammar Test	Extra Grammar	Video Review	Japanese	プロジェクト
3	Aural & Oral Test		Japanese	Proficiency Test	
4	ビデオヤンさん L 10 かんじ	Kanji Review L10 かんじ	Proficiency Test Level 4	Level 4 Part II	
Office hour	Reading Practice	quiz	Part I		
Office hour	1:30-2:20 プロジェクトの準備	1:30-2:20 プロジェクトの準備		1:30-2:20 プロジェクトの準備	さよなら パーティー準備

3. C1の到達度

1のコースデザインにおいて述べたように、C1では6週間の期間中にJCSのvol.1の第1課から10課までを学習することになっている。6週間の学習時間は正規の授業時間数は120コマ(1コマ50分)で、その中に試験やプロジェクトに費やす時間なども含まれる。しかし実際にはC1では授業開始前の一日4コマと、オフィスアワーの個別指導時間を全体指導に当てた時間分、24時間も学習者が教師と学習した時間である。つまり1997年度のC1では総授業時間数はおよそ148コマ、時間に換算すると123時間である。

資料1-3(A,B,C)に示したように、1週間に2課のペースで進むので、最後の6週目は復習と試験、プロジェクトの準備などに当てることができる。この週にJCSのvol.2の学習項目からいくつかを拾って導入し、日本語能力試験4級³⁾の範囲内の漢字でvol.1にない漢字を学習した。最後に成績とは関係のない、参考資料として日本語能力試験4級の平成8年度の試験を実施した。会話能力については十五分程度のインタビューテストを行い、ACTFLOPIの評価基準にそって評価した。

表1はC1の学習者の日本語能力試験4級とACTFL OPI会話能力テストの結果である。公表されている日本語能力試験の判定基準では文字・語彙(100)、聴解(100)、読解・文法(200)の総合成績の約6割の得点が合格基準である。JCS、vol.1は日本

語能力試験の4級の範囲と一致しているわけではないので、学習者にとっては未習の学習項目や漢字の読みも含まれている。このことを考慮に入れば、以下の結果は評価してよいだろう。

表1 C1履修者の能力試験4級成績とACTFL OPI結果

	文字・語彙	聴解	読解・文法	総合	会話
	100	100	200	%	
A	49	50	110	52%	中級下
B	49	72	70	48%	初級上
C	60	64	68	48%	中級下
D	65	77	140	71%	中級下
E	80	77	147	76%	中級下
F	40	45	65	38%	中級下
G	89	50	95	59%	中級下
H	58	64	121	61%	中級下

会話能力テストではほとんどすべての学習者が「文のレベルで話すことができ、簡単なコミュニケーション上のタスクをはたすことができる」中級のレベルに達している。

4. C1の教育の方法

C1で行った教育の方法に特に目新しいものがあるわけではないが、日本で実施する短期集中講座に特徴的な方法にしぼって、教室内の活動と教室外の活動について整理する。

4-1. 学習者の発話とインターアクションを重視した教室内活動

C1の教室において媒介語を使用する頻度を少なくし、最初から日本語による発話をうながすようにしたことは2-2で述べたが、教室内活動では、実物や視覚的教材などのリソース、授業見学者などの人的リソースの活用を心掛けた。次にこの目的のための教室のセッティングと口頭表現練習を中心とした活動例をまとめる。

(1) 教室のセッティング⁴⁾

ICUの通常の学期においても、学期を通して各コースに特定の教室が指定されてはいるが、専用教室というわけではない。しかし、夏期日本語教育では各コースに専用の教室が与えられる。先ずC1専用教室に装飾を施す。テーマは「にほん」である。生け花、ポス

ター、書道、日本地図、絵ハガキなど色々な角度からの日本のイメージを教室に取り込む。余裕があれば障子や畳などを使って日本の空間を再現することも可能である。また音楽を流すのも効果的である。このようなセッティングは、「日本語」を使用する空間としての教室を意識させるのに役立つ。

C1では学習の進行と平行して、平仮名チャートや片仮名チャートを一定の期間教室に張っておくことなどのほかに、動詞や形容詞の導入と練習に使った絵カードのコピーや文型カードを授業の中で学習者が教室の壁にはることを教室活動の一環として行った。2週目ごろには教室の壁に隙間がないくらいになったが、これらの絵やカードは授業中に復習や練習のために利用するのに便利であるばかりでなく、始終目にするため学習者の記憶を助けることができるという利点がある。絵葉書やポスターはコース終了時に学習者にプレゼントされた。

(2) 口頭表現練習を重視した活動

6週間の目標がごく簡単な日常的な場面での会話のコミュニケーション能力の養成にあることはすでに述べたが、この目標の達成のために、教室内での自然な速さの日本語の使用、場面を設定した会話練習、ロールプレイを教室活動の基本とし、教科書に忠実でありながら、必要なことや役に立つことはどんどん導入するという方針でクラス運営にあたった。3週目からは午後のオフィスアワーの時間に自由度の高い会話や、特定の場面で使用される表現の練習を行った。教科書のシラバスを離れて、自由に会話をする経験もコミュニケーション能力を育てていくためには効果的な方法である。ICUの夏期日本語教育でも、日本人学生をヘルパーとする会話授業や日本語ラウンジのような試みがあるが、C1のような入門レベルの学習者の場合、日本語能力が極めて限定されているため、このような試みの恩恵を受けることがむずかしい。このレベルの学習者のための「自由会話」は、学習者の日本語能力と既習事項を熟知した教師が行うことが有効であろうと思われる。

4-2. 教室外の活動

次に教室外の活動として、宿題課題として実施した課題作文とジャーナル、および体験学習を取り上げる。

(1) 宿題とジャーナル

教室活動では主に口頭表現の練習を中心にしたので、書くという作業は教室外で自分で行う課題とした。さらに毎週日本語学習記録(ジャーナル)を書くことを宿題とした。ジャーナルには学習者が学習過程を内省して学習の方法を学ぶという目的以外に個別指導の目的がある。

資料2-1はジャーナルの例、資料2-2は宿題の例である。

~~~~~  
資料2-1

Japanese Language Learning Journal Week 2 (非漢字系学習者)

1. Are you satisfied with your progress?

*I am somewhat satisfied with my progress. I wish I can speak much faster and remember all of the vocabulary. It is getting harder to remember a lot of words especially when you are trying to speak.*

2. Where do you find difficulty in learning Japanese?

*Speaking and trying to remember so much is quite difficult.*

3. What is your learning method?

*I use index cards to practice and remember the writing. With speaking I constantly write words down and repeat them over and over again.*

4. Do you use Japanese outside the classroom?

Not at all 1 2 3 4 5 Always

5. Are you happy about how C1 class is run? If you have any suggestion for improvement, please state.

*I am satisfied with the ways things are being run. I do think it is very difficult to study to your best ability when the homework is a lot.*  
~~~~~

資料2-2

宿題 Week 3 (非漢字系学習者) (原文のまま)

My Impression of Life in Tokyo

七月三日とうきょうのなりたくうこうにいました。

とうきょうのなりたくうこうの人はとてもしんせつでした。バスでしんじゅうくにいきました。そこに、しんせつな人にホテルのみちをききました。ホテルで、しんせつな人がたくさんいました。

しんじゅうくはたてものがとてもたかいとたくさんでした。しんじゅうくはあかるといいます。ときょうは人がたくさんいますが、しんせつな人がいます。

ときょうはくるまがおおいです。でもくるまはちいさいときれいです。ときょうはこうつうがべんりです、でもたかいです。それに、こうつうがたくさんあります。クルマ、バス、でんしゃ、メトロ、じてんしゃなどです。

ときょうは大きいまちです。それから、うるさいですが、ICUはうるさいじゃありません、しずかなところですよ。

とうきょうはみちが、きたなくくないです。

ときょうは人がいそがしいですが、こうえんにいきます。それから、りょこうをします。

わたしはときょうがすきです！

(2) 体験学習の試み

教室外の活動の中心は、日本における日本語学習の利点を生かして、体験学習を組み込むことである。この時期は通常の授業は行われていないため、ICUの学内で日本人学生と交流することはむずかしいが、反面クラス単位の移動が容易であり、周りの施設や人びとの協力が得やすいという利点がある。C1では小規模のものも合わせて、4回の教室外の体験学習を実施した。4回の課題と関連学習項目は次の通りである。

1回目

時期：JCSの1課と2課の学習終了時

課題：学生ラウンジの「パン屋さん」⁵⁾の営業時間を聞く。パン／おにぎり／飲み物の値段を聞いて、購入する。

学習項目：営業時間を聞く。値段を聞く。購入する。代金を払う。おつりを受け取る。

学習活動：学習者はペアになって、「パン屋さん」に出かけ、上記の活動を行い、教室に戻ってから、報告する。

2回目

時期：3課と4課の学習終了時

課題：飲み物と食べ物を勧める／勧められる

学習項目：飲む／食べる／いる／いないなどの動詞を使用する。勧め方、受け入れ方、断り方を実習する。

学習活動：飲み物や食べ物を用意し、教師用のラウンジを使って実際に勧めたり、食べたり、飲んだりする。

3回目

時期：6課と7課の学習終了時

課題：郵便局で手紙を出したり、切手などを購入したりする。

学習項目：数量詞を使う。買い物をする。

学習活動：教師が買うもの、出すものをメモして学習者に渡し、学内にある郵便局に出かけ、適切な表現を用いて課題をはたす。

4回目⁶⁾

時期：8課終了時

課題：バスの時間を調べる、場所を聞く、営業時間を聞く、売り場を聞く、商品について質問する、買い物をする、道を聞く、訪問の挨拶をする、食べ物や飲み物を勧

める、食事をする、帰宅の挨拶をする、日本の若者文化に親しむ。

学習項目：8課までの学習項目の統合。訪問のマナー。

学習活動：ICUからバスに乗って武蔵境駅へ行き、バスの行き先、スーパーの場所や営業時間などを通行人に聞く。スーパーで売り場を聞き、商品についていくつかの質問をする。

買い物をして、家庭訪問に出かける。訪問の実習をする。プリントクラブをする。

資料3は学習者による体験学習のレポート例である。

資料3 プロジェクトレポート(日本語学習歴2か月の非漢字系の学習者)(原文のまま)

バスの中。

ICUから、九時半のバスでむさしきかいに行きました。バスにのりましたが、キンヤオさんはじてんしゃでむさしきかいてきから行きました。

バスに、わたしたちと九にんいました。それから、バスドライブもいました。

ICUからむさしきかいまで十五分くらいでした。それから、二ひゃくえんでした。バスのりば。

二ばんバスのりばで、しんせつなおんなのひとにしつもんをしました。すみません、このバスはICUへ行きますか。いいえ、いきません。でもあのバスは行きます。どれですか。あれです。じゃどもありがとう。

イトーヨーカドー。

ふるいおんなの人にしつもんしました。すみませんイトーヨーカドーは何時かですか。わかりません。イトーヨーカドーのとうそましました。そこで、おとこの人におなじしつもんをしました。イトーヨーカドーは午前十時から午後十時までです。イトーヨーカドーでてんいんにたくさんしつもんをしました。ゆかたは何かいにありますか。ここに 있습니다。そうですか。きれいですね。でもいくらですか。??円です。そうですか。ちょっとたかいですね。いちばんやすいのがいくらですか。??円です。ゆかたはなつにきますか。はい、なつにきます。ちわんは何かいにありますか。二かいにありあす。どもありがとう。

二かいにかさとひがさがあります。そこで、てんいんにしつもんをしました。ひがさはどれですか。これです。いちばんやすいのがどれですか。なぎひがさのやすいのが一せん九ひゃくえんです。みじかいのいちばんやすいのが一せん四ひゃくえんです。ひがさはいつきますか。なつにきます。どもありがとう。

三かいにてんいんにしつもんをしました。すみません。ちわんはどこですか。あ

そこです。

いちばんやすいのはいくらですか。これです。五ひゃく八十えんです。どもありがとう。

スーパーにいきました。そこで、むらの先生におみやげをかいました。ジュースをかいました。

それから、パンをかいました。パンをたべました。

プリ・クラ。

ともだちといっしょにプリ・クラをしました。チョーおもしろいでしたね！

ろくちゅう。

きれいなおなの人に一つしつもんをしました。ろくちゅうがどこにありますか。

5. まとめ—短期日本語集中教育における JCS の使用

以上1996年と1997年の2年間の短期日本語集中教育において JCS Basic, vol.1 を使用した経験を踏まえて、シラバスの可能性と教材の生かし方についてまとめた。結論として JCS はこのような短期日本語教育において十分使用できる教材であるばかりでなく、非常に適した教材であると言える。その理由は2つの点にある。一つは JCS の vol.1 の1課から10課に盛られた学習項目が非常に充実していることである。実際 JCS の1課から10課までの内容は他の2分冊、vol.2 と vol.3 を合わせたものに匹敵するくらいの分量である。このことは非常に学習項目が多く、短期間に教え込むことがむずかしいという問題点でもあるが、一方で学習者自身が短期間でかなり日本語能力がついたと感ずることができるだけの内容を含んでいるため、学習者の自信と満足感を高めることができる。これはコース終了時の学習者の満足度の調査において、立証されている⁷⁾。

もう1点は JCS がコミュニケーション能力の養成、ことに会話能力をつけることを重視していることである。日常的なコミュニケーション場面でよく使用される表現や語彙が多く使用されていること、外国人留学生が遭遇しそうな場面を取り上げていることなど、日本における短期集中日本語教育に必要な学習項目はほとんどすべて教科書に扱われている。そのため教師が教材を作成したり、探してきたりする時間と労力が節約でき、その分を学習者との会話練習に使うことができる。また JCS には必要な情報が盛り沢山に入こまれており、学習者のレフェレンスとしても役立つことが学習者から指摘されている。

問題点は、情報が盛り沢山であるために、教師が適切に裁断しないと、学習者によっては消化不良をおこすおそれがあるという点であろう。実際6週間という短い期間に平仮名、片仮名、漢字約80字を学習しながら、1課から10課までの学習項目を学んでいくことは容易ではない。しかし意欲的で能力のある若い学習者と教師の適切な指導があれば、大

きな成果をあげられる教材であるということが過去2年の経験から言えることである。

- 1) ICU初級教科書は1989年の夏期日本語教育において初めて試用されていらい、仮綴じの形で、毎年初級レベルで試用してきたが、1996年には最終試用版を、さらに1997年には出版された教科書を使用した。
- 2) C I コースについては『ICU夏期日本語教育論集』 vol.13,1996. vol.14,1997.に筆者が報告している。
- 3) 日本語能力試験 4 級は150時間の学習時間の終了時を目安としている。
- 4) 教室のデザインは1997年度C I 担当の牧野礼子先生のアイディアである。
- 5) 夏期日本語教育では、学生ラウンジで午前中菓子パンやおにぎり、飲み物などの軽食を販売している。
- 6) 4 回のプロジェクトについては『ICU夏期日本語教育論集』 vol.14,1997.において詳しく紹介し、体験学習の可能性と有効性について述べたのでそれを参照のこと。
- 7) 『ICU夏期日本語教育論集』 vol.13,1996. vol.14,1997.の教務主任報告を参照のこと。